

にぎわい 通信

- 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信 -

レポート

< 総会のご報告 >

9月6日、北海道稚内市で平成13年度総会が開催されました。

総会では、代表の長谷川新潟市長の開会挨拶、横田稚内市長の歓迎挨拶、上原北海道開発局港湾空港部長の来賓挨拶の後に続いて、総会議事で平成12年度の活動(ホームページの作成等)、決算が報告され、平成13年度の事業計画(ホームページの開設・運営、ホームページデータベースの拡充を行っていくこと等)、平成13年度の予算案が決定されました。



長谷川新潟市長の開会挨拶



宮西氏による講演

総会後に行われたフォーラムでは、サハリンで日本料理「飛鳥」を経営されている宮西豊氏から『事業成功者からみた「ロシア人のこころ、日本人のこころ」』と題してご講演を頂きました。ロシア人との交流経験から、時間をかけないと友好関係は出来にくく、現在のレストランが軌道に乗るまでの苦労話とロシア人に助けられた経験をユーモアを交えて約1時間語っていただきました。

続いて、北海道開発局港湾空港部長のコーディネートにより総会に出席頂いた自治体の代表の方々に、北陸地方整備局次長による話題提供(環日本海における交流の取り組み等)の後、意見交換会を行っていただきました。自治体の方々からは、「環境」と「交流」というキーワードで日頃考えていること、それぞれの自治体で取り組まれていることを自由に述べていただきました。「環境」では各



意見交換会の状況

自治体が取り組まれている事例を挙げ今後の展開などを、また「交流」では、日本国内のみではなく海外を見込んだ交流の状況・展望を語っていただきました。

総会フォーラムに引き続いて、懇親会が行われ会員相互の「交流」を行いました。懇親会の中では、地元の青年団に「よさこいソーラン節」を披露していただき場を盛り上げていただきました。



よさこいソーラン節披露

来年度の総会は、京都府舞鶴市で行う予定です。

紹介

＜大型浚渫兼油回収船「白山」が進水＞

北陸地方整備局が建造を進めていた大型浚渫兼油回収船「白山」の命名・進水式が8月29日、東京都江東区の石川島播磨重工業東京第一工場で行われました。

進水式には紀宮さまをはじめ、扇千景国土交通大臣などが出席しました。式では約4,000人が見守る中、扇大臣が「白山と命名する」と宣言し、紀宮さまが船台と船を結ぶ綱をおので断ち切ると、約4,200tの船体がゆっくりと東京湾に滑り出し、一斉に拍手が上がりました。



同船は、平成9年1月のロシア「ナホトカ号」の重油流出事故を契機に、外洋における流出油防除体制強化のため建造を進めているもので、内装などを平成14年8月までに完成させた後、新潟港湾空港工事事務所に配備されます。

油回収船の配備は、名古屋港、北九州港に続いて日本海側では初めてとなります。日本海側の中央部に位置する新潟港に配備されることで、事故発生後24時間以内に日本海沿岸、48時間以内には3隻で日本周辺のほぼ全域で対応が可能となり、現場到着時間の大幅な短縮が図られます。



会員だより

< 柏崎市 >

柏崎港が国際貿易港として開港して今年で30周年を迎えたことから、柏崎港整備・利用促進協議会主催の記念イベントが7月25日から29日までの5日間にわたり柏崎港に航海訓練所の訓練帆船「日本丸」を招へいし、さまざまなイベントが開催されました。

太平洋の白鳥といわれる「日本丸」、日ごろ目にする事のない美しい帆船の魅力に引き寄せられ、3万5千人の人々が港を訪れ、にぎわいを見せました。

セイルドリルで白い帆を船いっぱい張った日本丸は、快晴の空と青い海の間で羽根を広げた白鳥そのものでした。



また、27日には、30周年記念式典に引き続き平山新潟県知事や日本丸の山本船長によるトークイベントが行われ、410名の来場者が熱心に聞き入りました。

トークイベントでは、海のすばらしさや帆船の魅力について語られ、帆船でトレーニングを体験した若者たちの体験報告なども行なわれました。

柏崎港は、国際貿易港として30周年を迎えた今、物流だけの港ではなく、人と人がふれあいにぎわう場へ新しい道を歩みはじめます。

会員だより

<小木町>

日本のほぼ中央、日本海に浮かぶ離島、佐渡島の最南端に位置し、三方海に囲まれ海岸段丘帯で形成され風光明媚な半島の町である。また、歴史遺産が多く伝統芸能華やか文化かおる人情風俗豊かな港町でもある。

小木町の面積は、25.95 平方キロメートルで、佐渡島全面積 854.83 平方キロメートルの約3%と10市町村で1番小さい町である。

その中でも、中世の頃より回船業を営む者が移住した「宿根木村」は、佐渡の富の3分の1を集めたと言われるほど栄えた村で、当時、多くの人達が自前の船を持ちお互いに助け合いながら、全国各地へ乗り出し商いを続けた結果、宿根木村には船大工をはじめ造船技術者が移住し、1村が千石船産業の基地として整備され繁栄した千石船の里である。平成3年4月30日（1991年）新潟県内で初めて、重要伝統的建造物群保存地区に選定され、現在継続して整備中であるが、一見に値する歴史遺産である。

また、文政3年（1820年）当地、宿根木村に生まれた「柴田収蔵」が、成人してのち、江戸へ出て「伊東玄朴」の門に学び蘭医となり、更に「古賀謹一郎」のもとで地理学を修め、地球全図を上梓した時、日本と中国との間の海域を「日本海」と記してあり、その頃から世界地図に「日本海」が載るようになったので、「柴田収蔵」が命名したと言われていることから、歴史的に活躍した人物の出身地でもある。

今、世界遺産に登録したいと努力している有名な佐渡金山（相川金山）が相川町で発見されたのは、関ヶ原の戦いの翌年、慶長6年（1601年）である。

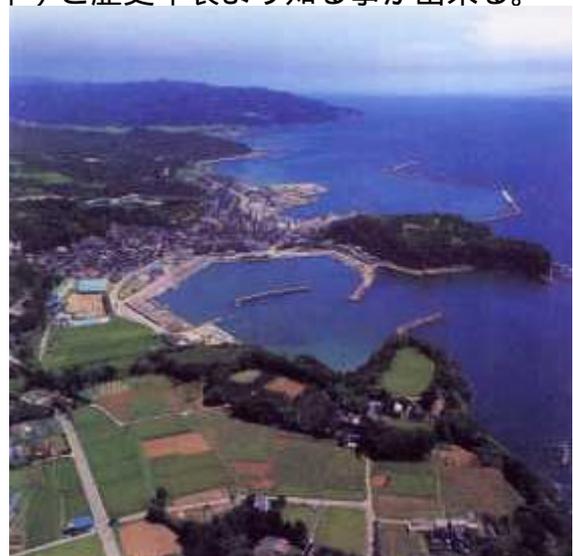
「徳川家康」が天領として佐渡奉行所を設置し、「大久保石見守長安」を佐渡金銀山代官に任命したのが、慶長8年（1603年）と歴史年表より知る事が出来る。

慶長19年（1614年）小木港が開港され、問屋5人が置かれ、その後、寛永8年（1631年）頃から金銀輸送が本格化するにつれて、外の潤、内の潤と天然の湾を利用できる良港、小木港を有する我が町は港町として栄えたのである。

更に、寛文12年（1672年）「河村瑞賢」によって、大阪は堺港から山形の酒田港への西回り航路が開かれ、小木港が寄港地に定められたため、来航する船舶は、北港道、奥羽、北陸、山陰、山陽等全国の商船が多く寄港し、島内流通の貨物の集散地として、佐渡第一の港町になったのである。

それは、多くの物資と共に町民文化も千石船によって運ばれたのである。その中でも1番今日に残っているのは、代表的な佐渡民謡「小木おけさ」である。

当時、大阪は堺港を出港した千石船が瀬戸内海を通り、関門海峡を抜け今の日本



天然の良港、小木港
「城山で仕切られた外の潤と内の潤」

海に出て北上するところから「北前船」とも呼ばれた。その船乗り衆が、航海途中に立ち寄り停泊した港町での酒盛りの席で、九州の熊本県牛深ハイヤ節、長崎県平戸の田助ハイヤ節、鹿児島県の坊津ハンヤ節等を唄い踊り、町人衆と交流しながら各地にハイヤ節を広めたのである。



宿根木村「千石船」

その九州のハイヤ節が小木港に伝わり「小木おけさ」となり今日に伝わっているのである。

平成12年(2000年)8月28日、町政施行百周年記念行事として開催された「小木おけさ大会」は、多くの佐渡島内外者の参加を頂き、1,300人余が盛大に踊ったのである。

全国的に有名な民謡「佐渡おけさ」の元唄は「小木おけさ」であることから小木町(港)は、佐渡おけさ発祥の地であると全島民の知るところである。

江戸時代、千石船でにぎわった日本海交流海道は今なお脈々と繋がっているのである。

昭和61年(1986年)から、保育士、先生、町民有志等により、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の児童・生徒を対象とした「小木おけさ」の伝承も15年間に過ぎ、多くの賞を受賞し、今年は東京上野祭りに小中学生代表が参加出来たことは記念すべきことであった。

毎年、8月14日から16日の盆踊り、約350年の歴史を有する8月28日から30日の小木港まつりに「小木おけさ」が盛大に踊り継がれているのである。



伝承芸能「小木おけさ」

現在も我が小木町は、マリン・タウンを目指し、昭和63年(1988年)上越市と「友好港湾都市」提携の連盟を結び、特に、小木港は佐渡の南の玄関口としての役目を守りつつ、再び、全国への発信基地となり大きく羽ばたける様に多くの施策に挑戦しているのである。

多くの外国航路、国内航路で結ばれている上越市の直江津港とは、高速船ジェットfoilで1時間、カーフェリーで2時間30分で結ばれ、かつてにぎわった海道は、今なお関西方面と深く結ばれる位置にあるのである。

会員だより

<三国町>

7月15日福井港で「第12回福井港ポート天国」が開催されました。この「ポート天国」は、物流機能を果たす港湾を休日の一定時間「遊空間」、海の「歩行者天国」として市民に提供することにより港湾を身近に体験していただき、安全思想の普及・高揚と技術・マナーの向上を図り、もって海洋レジャーの事故防止及び健全な発展に資することを目的として、平成2年から毎年開催されています。今年も、巡視艇『みうら』(3,000t)の体験公開を始めとして、クルーザーヨット・ジェットスキーの体験や、ディンギーヨット・ウィンドサーフィンのレースなどが行われ、1,000人の方々が梅雨が明けたばかりの真夏の日本海を満喫しました。

主催：福井港ポート天国推進協議会・三国海上保安署

後援：三国町、福井港湾事務所、福井港振興協会、三国競艇運営競技会ほか



ポート天国開会式



1日海上保安官



巡視船『みうら』の体験航海



巡視船『みうら』の体験航海



ジェットスキーの体験

編集後記

にぎわい総会が先日で行われ、私も初めて稚内市へ行きました。食べ物も豊富で美味しく、観光地も色々あり良いところだと感じさせられました。その総会もようやく終わり、ホッとしています。総会を行うに当たって、開催地となった稚内市役所及び北海道開発局の職員の方々には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

総会が終わっても「にぎわい通信」の担当ということもあって、少し慌ただしかったのですが、会員の皆様のご協力のおかげを持ちまして、無事「にぎわい通信 39号」を発行することが出来、一安心と言うところです。原稿を寄与していただいた皆様大変ありがとうございました。

これからも「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の活動をよろしく願いいたします。

- - - 編集・問い合わせ先 - - -

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

北陸地方整備局 港湾空港部

海域環境・海岸課

〒951-8545 新潟市白山浦1-332

tel : (025)265-7783

Fax : (025)230-3680